

教えて先生!

県病院と学ぼう! -医療のはなし-

「県病院と学ぼう! -医療のはなし-」では、さまざまな病気にフォーカスします。
岐阜県立多治見病院の先生からのアドバイスもぜひご参考にしてください。

今回のテーマ

脊椎や骨盤骨折手術の正確性安全性が向上

～新中央診療棟にハイブリッド手術室を導入～



術中リアルタイムでCT撮影が可能

新中央診療棟に東濃地域初となるハイブリッド手術室が導入されました。同手術室は従来の手術室と各画像診断装置など検査機器が融合した設備です。今回は整形外科で、どのように活用しているかお話しいたします。

最大のメリットは手術室の中でCT撮影ができることです。CTデータをナビゲーションシステムに転送して、リアルタイムに画像を出しながら進めていくので、まず格段に安全性が高くなりました。手術が終わり、まだ麻酔がかかった状態で手術室を出る前に再度CT撮影を行い確認できるのでダブルチェックが

難易度が高い頸椎骨折手術でも3D画像で位置を確実に把握

でき、万が一の際も、すぐに対応できるメリットもあります。既にハイブリッド手術室で、脊椎の手術や骨盤骨折に対する手術を始めており、実績を積んでいます。

まず骨盤骨折手術を例にお話ししていきます。骨折した骨盤に接合固定するためのスクリューといわれるネジ状の金具を通します。周囲には臓器や血管などがあり、骨の中には神経が通っていますので、傷つけないよう細心の注意が必要です。非常に複雑な位置を把握するため、3次元の画像が有用です。ハイブリッド手術の場合は、マーカーをつけてCT撮影するとナビゲーション画像上に3D画像となつて表示されるので正面側面、そして輪切り像などの任意の断面像をリアルタイムで確認して正しい位置や角度を把握できるようになりました。

もっとシビアな頸椎骨折手術ですと、骨の中に脊髄神経や脳につながる重要な血管が通っていますが、骨が小さくて固定器具を通す隙間の余裕がありません。幅3mmの隙間に直径3mmのスクリューを入れるのではなく、はならない場合もあります。それが高精度にできるようになりましたので安全性はより高くなりました。

次世代スタッフ教育にも効果

もう一つのメリットはスタッフ教育の面で効果が高いことです。3Dで画面表示されるので立体的に認識することができ、執刀医だけでなくスタッフ全員が画面を見ていることになるので特に若い先生に対して教育的效果が期待できます。手術の面だけでなく、次代の県病院を支えるスタッフの育成にも効果がある事にご理解いただけると幸いです。

保険適用され整形外科にも使いやすい手術室

このハイブリッド手術室は保険適用となつていますが、状態によっては従来の手術で行う場合がありますのでご了承ください。当院のハイブリッド手術室は整形外科にとって使い勝手の良いシステムが導入されており、今後の県病院整形外科にご期待ください。

Doctor's Profile



岐阜県立多治見病院
副院長 兼 地域医療連携センター長
兼 整形外科第一部長
兼 リハビリテーション科主任医長
高津 哲郎先生
・整形外科学会専門医

